

中学校知的障害特別支援学級の設置について

1 検討経過と設置について

現在、小学校知的障害特別支援学級の在籍児童数が増加傾向にあり、進学等により、今後は中学校においても特別な支援を必要とする生徒が増加することが考えられる。

そのため、昨年度より文京区特別支援教育振興委員会において、「知的障害特別支援学級の現状と今後の対応について」の検討を進めてきた。

その結果、「汐見小学校の知的障害特別支援学級に通学する児童が増加傾向にあることから、中学校への知的障害特別支援学級の新設を考える場合は、児童・生徒の居住地とともに、区全体における特別支援学級設置校の地域性を踏まえて総合的に判断する」との結論を、別紙「文京区特別支援教育振興委員会審議結果 中間まとめ」のとおり教育長に報告した。

このことを受け、教育委員会として第八中学校と文林中学校を検討し、第八中学校に新たな特別支援学級を設置することとした。

2 設置場所

第八中学校

3 設置予定時期

令和2年4月

特別支援学級設置を想定した場合の第八中学校と文林中学校の比較

	項目	第八中学校	文林中学校
1	区全体の配置バランス	<ul style="list-style-type: none"> ・区東部をカバーすることができる。 ・特に根津、千駄木方面に居住する生徒に対応できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・区北東部をカバーすることができる。 ・特に向丘、千駄木、本駒込方面に居住する生徒に対応できる。 ・第九中学校の学区域に隣接している。
2	入学可能性のある生徒の居住地との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・根津、千駄木方面に居住する生徒に対応できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・向丘、千駄木、本駒込方面に居住する生徒に対応できる。
3	交通の利便性	<ul style="list-style-type: none"> ・東京メトロ千代田線千駄木駅徒歩3分 ・不忍通り沿いから都バス都58系統を利用可。バス停徒歩3分 ・バス頻度は朝7分、夕方10分に1本。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京メトロ千代田線千駄木駅徒歩5分 ・不忍通り沿いから都バス都58系統を利用可。バス停徒歩6分 ・バス頻度は朝7分、夕方10分に1本。
4	小学校特別支援学級との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・汐見小学校と隣接している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・千駄木小学校と隣接しているが、第九中学校の学区域も隣接している。
5	施設面	<ul style="list-style-type: none"> ・建物敷地4,279㎡。 ・2教室程度のスペースの確保は可能。それに伴う他教室の整備が必要になる。 ・施設の改修を行えば、特別支援学級の設置は可能である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建物敷地4,500㎡ ・2教室程度のスペースの確保は可能。それに伴う他教室の整備が必要になる。 ・施設の改修を行えば、特別支援学級の設置は可能である。
6	通学の多い小学校	根津小、汐見小	千駄木小
7	平成31年度生徒数・学級数	第1学年 38名 第2学年 38名 第3学年 23名 学級数 3学級 99	第1学年 21人 第2学年 11人 第3学年 31人 学級数 3学級 63

【別紙】

令和元年5月8日

文京区教育委員会
教育長 佐藤 正子 様

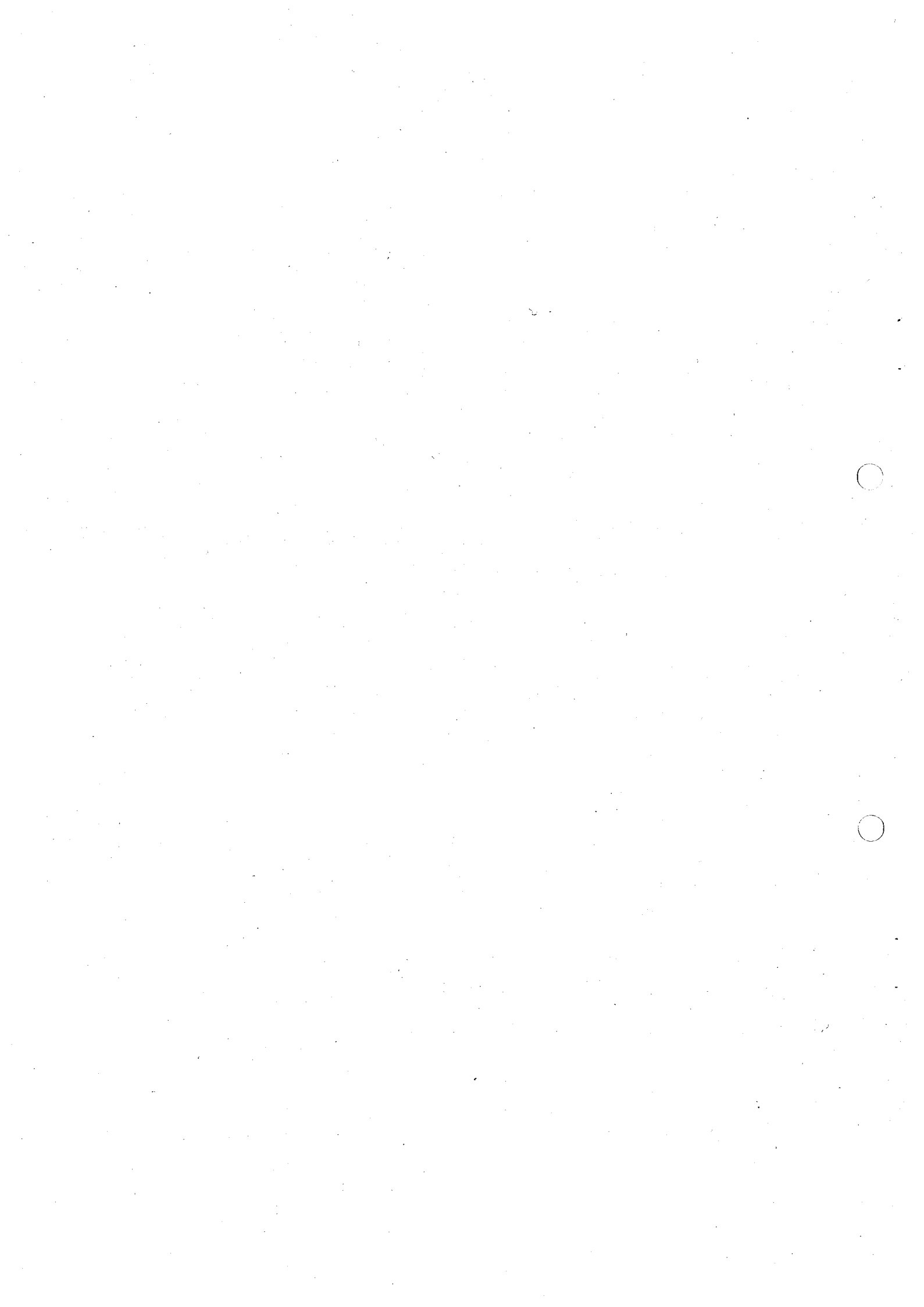
文京区特別支援教育振興委員会
会長 松本 絵美子

文京区特別支援教育振興委員会審議結果 中間まとめ

平成30年11月、文京区教育委員会教育長から、下記の件について諮問されたうち、「1 知的障害特別支援学級の現状と今後の対応について」、その結果をまとめ、報告いたします。

記

- 1 知的障害特別支援学級の現状と今後の対応について
- 2 自閉症・情緒障害特別支援学級の現状と今後の対応について
- 3 特別支援教室の導入後の状況について



はじめに

平成29年3月、文部科学省より小・中学校の新しい学習指導要領が告示され、これからの学校教育の在り方が示されたところである。

また、東京都においては、「東京都特別支援教育推進計画第三次実施計画」に基づき、通常の学級に在籍している発達障害（高機能自閉症、アスペルガー症候群、注意欠陥多動性障害、学習障害等）の児童・生徒を対象とした特別支援教室が導入され、本区でも平成29年度から小学校の特別支援教室（学びの教室）を、平成31年度から中学校の特別支援教室（アドバンスルーム）を開室してきた。

こうした流れの中、小学校の特別支援教室を利用する児童数は大きく増加しており、小学校の知的障害特別支援学級在籍児童数も増加傾向にある。このことを受け、今後は中学校においても特別な支援を必要とする生徒が増加することが考えられ、多様化する教育ニーズに応じて、適切な指導と必要な支援を行うための基礎的環境整備が求められている。

平成30年11月、文京区特別支援教育振興委員会（以下、本委員会という）は、教育長から本区における特別支援教育の現状と課題を分析し、今後の方向性を審議するよう諮問された。

（平成30年11月6日付30文教教第1605号）

これを受け、本委員会では、まず、知的障害特別支援学級の現状と今後の対応について検討を進めてきた。ここに、これまでの審議内容をまとめたので報告する。

1 現状と課題

(1) 児童・生徒数

平成22年度から今年度まで、ここ10年間の知的障害特別支援学級在籍児童・生徒数（表1）を見ると、小学校では、58名から95名と、1.64倍に増加している。この間、知的障害特別支援学級の設置校は、礪川小学校、柳町小学校、林町小学校、湯島小学校の4校から、平成25年度に新設した汐見小学校を加え5校となった。

中学校では、31名から43名の間で推移しており、特に平成28年度から平成30年度の3年間を見ると、43名から31名へと、0.72倍に減少している。

小学校知的障害特別支援学級から中学校知的障害特別支援学級への進学率は毎年変動しており、在籍生徒数の予測が難しいことが課題として挙げられる。

表1 【知的障害特別支援学級在籍児童・生徒数】（各年5月1日現在）

年度 (平成)	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
小学校 (名)	58	78	75	77	73	82	77	87	95	95
中学校 (名)	33	37	38	38	38	39	43	39	31	35

(2) 学級規模及び施設面

平成26年2月の文京区特別支援教育振興委員会（以下、旧委員会という）の報告では、「学校全体の在籍児童数とのバランスは、知的障害学級に限らず、固定制特別支援学級の既存設置校すべてにおいて、考慮する必要がある。そこで、今後の交流及び共同学習の推進や学級運営上から鑑みて、固定制特別支援学級の適切な規模は2～3学級を原則とする。」としている。

この点から、平成22年度から今年度までの10年間の知的障害特別支援学級学級数（表2）を見ると、小学校においては、平成23年度に林町小学校が4学級、平成24年度に柳町小学校が4学級という状況が見られたが、平成25年度に汐見小学校に新設した後は、2～3学級が維持されている。ただし、平成31年度は、汐見小学校が4学級とな

っている。

中学校においては、平成23年度に第一中学校に新設した後、2～3学級を維持してきたが、在籍生徒数の減少傾向もあり、平成31年度は第一中学校が1学級となっている。

なお、施設面においては、いずれの設置校においても、2教室分程度のスペースを確保している。

表2 【知的障害特別支援学級学級数】 (各年5月1日現在)

年度 (平成)	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
礪川小	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3
柳町小	2	3	4	3	3	3	3	2	2	2
林町小	3	4	3	3	3	3	2	3	3	3
湯島小	1	2	2	3	2	3	3	3	3	2
汐見小				1	2	3	3	3	3	4
第一中		1	1	2	2	2	3	2	2	1
第三中	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
第九中	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2

(単位：学級数)

(3) 地域性

小・中学校の知的障害特別支援学級在籍児童・生徒の居住地には、大きな地域的な偏りは見られない。ただし、汐見小学校の知的障害特別支援学級に通学する児童に増加傾向が見られることから、今後、その児童の中学校への進学という点が、検討課題となることも予想される。

2 検討の方向性

(1) 児童・生徒数

学級選択の理由や今後の進学などについて実態を把握し、分析・検証を通して今後の対応を検討することを目的として、本区の小・中学校知的障害特別支援学級に在籍する全ての児童・生徒の保護者を対象としたアンケート調査を実施する。

(2) 学級規模及び施設面

1 (2) のとおり、旧委員会の報告では、「固定制特別支援学級の適切な規模は2～3学級を原則」としている。このことは交流及び共同学習の推進や、担当教員のOJTの必要性などからも裏付けされているが、平成31年度において、学級数の変動が生じていることを踏まえ、対応を検討していく。

また、施設面については、各校の教室の利用状況及び区全体の児童・生徒数増加への対応等を確認の上、特別支援学級の増級又は新設の可否を検討する。

(3) 地域性

今後、特別支援学級の増級もしくは新設も想定されることから、区全体の状況を考慮しながら、地域性について検討していく。

3 検討結果

(1) 児童・生徒数

中学校の知的障害特別支援学級においては、現在のところ在籍生徒数の推移に大きな変動は見られないが、小学校の在籍児童数が増加していることに注視していく必要がある。

また、アンケート調査集計結果を見ると、「保護者が自分の子どものためによいと感じていること」に関する回答は、小・中学校共に「学習面」、「生活面」、「友人関係」で

あった。また、「自分の子どもに関して心配なこと」に関する回答も、共に「進学や将来の就労」や「学習面」であった。

さらに「保護者が学級や進路を選択する際に重視したこと」に関する回答は、「学級の雰囲気」に続いて、「通学面」が小学校で2番目、中学校で3番目に挙げられており、知的障害特別支援学級への進学先を決める要素として、「学級の雰囲気」や「学習面」に加え、「通学面」が一定の比重を占めている。このことから、特別支援学級の増級もしくは新設を具体的に検討する際には、「通学面」を考慮した設置校の位置関係を検討していく必要があると言える。

(2) 学級規模及び施設面

旧委員会の報告を受け、本委員会においても学級規模を審議したが、その結果、今後も小学校は2～3学級、中学校は複数学級の維持を目指していくこととなった。学級の増減が見られる場合には、正規教員の配置状況や児童・生徒の状況を踏まえ、区講師の活用など、円滑に学級運営が図られるように配慮する必要がある。

また、施設面では、現状、小学校においては、児童数全体の増加により、新たな教室の確保が困難な状況が見られる。中学校においても、生徒数の増加や少人数指導等の関係から教室確保が困難な学校がある。これらの状況を踏まえ、教室の転用等を考える場合には、教育委員会において今後の生徒数の推移や各校の教室の利用状況を確認し、学校に詳細なヒアリングを実施するなど、慎重に検討を重ねていく必要がある。

(3) 地域性

前述のアンケート調査集計結果のとおり、小・中学校知的障害特別支援学級において、保護者が進学先を決める際の要素としては、「通学面」が一定の比重を占めていることから、増級もしくは新設を検討する際には、既存の設置校の位置関係を検討していく必要がある。

4 今後の対応

以上のことから、本委員会として、今後の対応を次のように判断した。

- 小学校知的障害特別支援学級に在籍する児童数の増加を踏まえ、小・中学校ともに、設置校への増級もしくは新設について検討する必要がある。
- ・ 小学校は、現時点での新設は困難だが、今後の大規模改修も視野に入れ、新設を含めた検討をする必要がある。検討にあたっては施設面での状況を踏まえ、この中間まとめで述べたさまざまな視点から検討する必要がある。
- ・ 中学校は、今後の小学校から中学校への進学状況や、地域性を考慮する必要がある。特に、汐見小学校の知的障害特別支援学級に通学する児童が増加傾向にあることから、中学校への知的障害特別支援学級の新設を考える場合は、児童・生徒の居住地とともに、区全体における特別支援学級設置校の地域性を踏まえて総合的に判断する。

【資料 1】

文京区特別支援教育振興委員会名簿

※職名等は、平成30年度現在

役 職	氏 名	所 属	職 名 等
会長	松本 絵美子	窪町小学校	校長（小学校長会長）
副会長	星野 孝雄	第一中学校	校長 （特別支援学級設置校長会長）
	本郷 光一	文林中学校	校長（中学校長会長）
	河瀬 正	礫川小学校	校長（知的固定学級）
	小池 夏子	柳町小学校	校長（知的固定学級）
	小川 深雪	林町小学校	校長（知的固定学級）
	原 香織	湯島小学校	校長（知的固定学級） ※平成30年度
	永井 昌美	汐見小学校	校長（知的固定学級）
	田中 純一	小日向台町小学校	校長（特別支援教室 情緒固定学級）
	田中 克昌	駒本小学校	校長（特別支援教室 情緒固定学級） ※平成30年度
	阿部 昭彦	第三中学校	校長（知的固定学級）
	小椋 孝	第九中学校	校長（知的固定学級）
	石出 勉	茗台中学校	校長（通級指導学級）
	松原 修	教育委員会	教育指導課長
	熱田 直道	教育委員会	学務課長
幹事	矢島 孝幸	教育委員会	教育センター所長
	森 進一	教育指導課	統括指導主事
事務局	山岸 健	教育指導課	統括指導主事
	佐藤 真魚	教育指導課	特別支援教育担当主査
	増山 美優	教育指導課	主 任

【資料 2】

文京区特別支援教育振興委員会知的障害特別支援学級部会名簿 ※職名等は、平成30年度現在

役 職	氏 名	所 属	職 名 等
会長 (第1回で互選)	松本 絵美子	窪町小学校	校長 (小学校長会長)
副会長	星野 孝雄	第一中学校	校長 (特別支援学級設置校長会長)
	本郷 光一	文林中学校	校長 (中学校長会長)
	河瀬 正	礪川小学校	校長 (知的固定学級)
	小池 夏子	柳町小学校	校長 (知的固定学級)
	小川 深雪	林町小学校	校長 (知的固定学級)
	原 香織	湯島小学校	校長 (知的固定学級)
	永井 昌美	汐見小学校	校長 (知的固定学級)
	阿部 昭彦	第三中学校	校長 (知的固定学級)
	小椋 孝	第九中学校	校長 (知的固定学級)
	松原 修	教育委員会	教育指導課長
	熱田 直道	教育委員会	学務課長
	矢島 孝幸	教育委員会	教育センター所長
幹事	森 進一	教育指導課	統括指導主事
	山岸 健	教育指導課	統括指導主事
事務局	佐藤 真魚	教育指導課	特別支援教育担当主査
	増山 美優	教育指導課	主 任

【資料 3】 審議経過

- ・第1回 平成30年11月 6日
- ・部会第1回 平成30年12月21日
- ・部会第2回 平成31年 1月11日
- ・部会第3回 平成31年 2月12日
- ・部会第4回 平成31年 3月15日
- ・部会第5回 平成31年 3月26日
- ・第2回 平成31年 4月16日

【資料 4】 アンケート調査集計結果

- (1) 調査対象 小学校第1学年～第6学年保護者 96名
 中学校第1学年～第3学年保護者 30名
- (2) 調査方法 郵送による調査用紙の配布と回収
- (3) 調査期間 平成31年2月25日(月)～3月4日(月)
- (4) 回答状況

ア 小学校 (96名在籍中、59名回答、回答率61.5%) 所属校不明 1名(高学年)

	1・2年	3・4年	5・6年
礪川小学校	6/6名	3/7名	2/3名
柳町小学校	4/4名	3/4名	0/4名
林町小学校	4/12名	3/5名	5/6名
湯島小学校	3/6名	5/7名	6/8名
汐見小学校	4/7名	5/9名	5/7名
合計	21/35名	19/32名	18/28名

イ 中学校 (30名在籍中、19名回答、回答率63.3%)

	1年	2年	3年
第一中学校	0/0名	3/3名	6/6名
第三中学校	3/5名	1/2名	1/3名
第九中学校	1/4名	2/4名	2/4名
合計	4/9名	6/9名	9/13名

(5) 集計結果概要

1 学級選択

【結果】小学校 ①学級の雰囲気 ②通学面 ③学校・学級の経営方針
 中学校 ①学級の雰囲気 ②学習面 ③通学面

【考察】小学校は、学級の雰囲気や通学面を強く考えている。中学校は、学習面や学級の雰囲気に重点をおいているが、通学面の課題も散見された。

2 お子様のためによいと感じていること

【結果】小学校 ①学習面 ②生活面 ③友人関係
 中学校 ①学習面 ②生活面 ③友人関係

【考察】小・中学校共に、学級のよさについては、学習面と共に、将来の自立を踏まえて生活面を大切にしている。また、子どものよりよい成長のため、友人との関係により社会性を身に付けることを大切にしている。

3 お子様のご心配なこと

【結果】小学校 ①進学や将来の就労 ②学習面 ③友人関係
 中学校 ①進学や将来の就労 ②学習面 ③生活面

【考察】小学校では、第3学年頃から進学について考えを始めている。
 小・中学校共に、進学や就労など、将来の自立について考えている。

4 中学校進学について(小学校のみ)

(1) 現時点でのお考え

【結果】①特別支援学級 ②通常の学級 ③特別支援学校

【考察】ほとんどのご家庭が就学相談に基づき進学を考えている。20%程度のご家庭が通常の学級を希望していることから、今後の就学相談等において、個別の事情を確認する必要がある。

(2) (1) で選んだ理由

【結果】①通学面 ②学習面 ③学級の雰囲気

【考察】中学校進学にあたって、小学校と同様に学級見学をすることで、学級の雰囲気がお子さんに合っているかを判断している。また、通学面でも一定の考慮をしていることがうかがえる。

5 中学校進学について、尊重される意向(小学校のみ)

【結果】①お子様と保護者の相談 ②保護者の意向 ③お子様の意向

(6) 集計結果

<p>【小学校】</p> <p>1 小学校の特別支援学級を選択する際に重視したことは何ですか。 主なものを次の中から3つまでお選びください。</p> <p>1 学校・学級の経営方針 26名 2 学級見学等における学級の雰囲気 44名 3 学習面 21名 4 学校生活面 11名 5 通学面 38名 6 友人関係 8名 7 その他 21名</p> <p>2 お子様が小学校の特別支援学級に通っていて、お子様のためによいと感じていることは何ですか。主なものを次の中から1つお選びください。</p> <p>1 学習面 48名 2 学校生活面 33名 3 友人関係 23名 4 進学や将来の就労 4名 5 その他 15名</p> <p>3 お子様は特別支援学級で通っている中で、ご心配なことは何ですか。主なものを次の中から3つまでお選びください。</p> <p>1 学習面 24名 2 学校生活面 9名 3 友人関係 16名 4 進学や将来の就労 39名 5 その他 18名</p>	<p>【中学校】</p> <p>1 中学校の特別支援学級を選択する際に重視したことは何ですか。 主なものを次の中から3つまでお選びください。</p> <p>1 学校・学級の経営方針 7名 2 学級見学等における学級の雰囲気 13名 3 学習面 12名 4 学校生活面 4名 5 通学面 9名 6 友人関係 2名 7 その他 3名</p> <p>2 お子様は中学校の特別支援学級に通っていて、お子様のためによいと感じていることは何ですか。主なものを次の中から1つお選びください。</p> <p>1 学習面 12名 2 学校生活面 9名 3 友人関係 8名 4 進学や将来の就労 2名 5 その他 3名</p> <p>3 お子様は特別支援学級で通っている中で、ご心配なことは何ですか。主なものを次の中から3つまでお選びください。</p> <p>1 学習面 10名 2 学校生活面 2名 3 友人関係 1名 4 進学や将来の就労 11名 5 その他 4名</p>
--	---

4 お子様の中学校進学について、現時点でのお考えをお書きください。
い。検討中の場合には、複数をお選びください。

なお、実際に進学する際には、改めて就学相談を行いますので、このアンケートの結果が、進学先に影響することはありません。

(1) 該当するものに○をおつけください。

- 特別支援学級 4 4名
- 特別支援学校 4 4名
- 通常の学級 1 16名
- その他 7 7名

(2) (1) で選ばれた理由は何ですか。主なものを次の中から3つまでお選びください。

- 1 学校・学級の経営方針 8 名
- 2 学級見学等における学級の雰囲気 2 6名
- 3 学習面 3 1名
- 4 学校生活面 1 7名
- 5 通学面 3 2名
- 6 友人関係 1 6名
- 7 その他 1 0名

5 お子様の中学校の進学について、どなたの意向を尊重されますか。

- 1 主に保護者の意向で決める 1 6名
- 2 お子様と保護者が相談して決める 3 6名
- 3 主にお子様の意向を尊重する 4 4名
- 4 その他 1 1名